

暦の上では既に立夏である。然しながら、朔東はいま正に春爛漫を迎えようとしている。GW明けの今朝(5/6)も何時もの如く、グリーンパーク経由でのウォーキング登庁であったが、道立美術館から帯広動物園に至る一帯の桜は満開であった。グリーンパークには前日までのお花見の残滓である塵の山また山で大変に驚いた次第。清掃員の方が片付けておられたが、「情けない限りですね。」と声を掛けたら、「困ったものです。」と応えられた。日本人の公德心は一体何処に行ってしまったのだろうか。

さて、GW後半はオホーツク正面の「小さな春、道東旅行」であった。約 600 km、2泊3日の行程であった。本来であれば、師団管内のみの旅行とすべきであったが、やむを得ず少しだけフライングをせざるを得なかった。北海道最後の夏となるであろう小生にとっては、思い出に残る旅行となった。幾つかの所懐を述べたい。

● 道の駅スタンプ・ラリー盛況なり！

道の駅は全国で700余、その内の1割強に当たる70数個が道内に設置されており、その数は年々少しずつ増えている。朔東管内には、17個(十勝：8、根釧：6、北見・美幌の師団管内：3)ある。今夏は長旅でもあったので、思い出作りの一環でスタンプラリーに挑戦する事にした。スタンプ押し場に行ってみて吃驚、若い者のみならず小生のような中年の、中には女性ドライバーも多かった。結果的には、8個のスタンプを押すことが出来た。

● 道の駅を戦略拠点に！

道の駅に遊園地を併設しての集客を企図している所もあったが、特に感心したのは、留辺蘂の道の駅(北海道24番目指定)である。

道の駅に隣接して、町立の郷土館・山の水族館・温泉水族館を合体させた複合型資料館、世界一のからくり鳩時計の果夢林、町の主要産業である木材を中心とした物産館でもある果夢林館と体験工房の設置、更にはキタキツネ牧場をも併せ抱き込んでいる。正に、町の一大情報発信基地であり、地域の重要な核ともなっている。

広大な土地を有し、モータリゼーションの発達した北海道では、道の駅は重要な地位にあると言える。所謂「道の駅」の一大戦略拠点化への発想への転換が必要である。大部分の駅はそういう意味では中途半端では？

● 広域連携を！

オホーツク・北見地方では、林業が盛んである。各地に木材をメインにしたテーマ館が設置されている。留辺蘂の果夢林の館(木工品の展示即売、体験工房)然り、生田原のチャチャワールド(世界のおもちゃとメルヘンの世界に遊ぶ藤城清治氏の影絵美術館)然り、北見の「オホーツク木のプラザ」、津別には「木材工芸館」がある。今回は残念ながら機会はなかったが、美幌町には「美幌林業館」、遠軽には、「木楽館」、置戸町の「オケクラフトセンター」、丸瀬布町の「木芸館」、西興部村の「木夢」がそれである。

これらは、ある意味ではライバルであるが、共に共栄すべき連携相手でもある。そういう願いを込めて、オホーツク正面の9施設が「オホーツク・クラフト街道」として、スタンプラリーを実施中である。

夫々が夫々の特色を発揮しつつ、尚共通的な森林や木材に関する必要情報を発信すると共に、全体として調和が取れるように配慮している。

広域で大同して集客を増大する為に、「北の大地を駆け巡る、周遊200キロ、オホーツクの魅力発見」と題した「花回遊」の試みを実施しているようだ。

何れにせよ、同じような魅力を持つもの同士が、大同団結して、より調和が取れた情報を発信し、魅力を提示することが求められている。

● No.1のオンパレード！

- ① 留辺蕊道の駅に併設してある世界一のからくり鳩時計は、高さ20mのシンボルタワーに取り付けられ、定時になると鐘が鳴り、からくり人形の森の精が出て演奏を開始する。ギネスブックに登録申請中である。
- ② 7万^株の敷地に120品種、120万株のチューリップの咲き誇る上湧別のチューリップ公園の花は、まだ一分咲きだった。当日は肌寒かった。
- ③ 道内一の大きさのサロマ湖に沈む夕日は絶景との評があるが、雲が厚くて少々残念。然しながら、海の幸のバイキングに舌鼓を打ちながら、暮れなずむ湖を眺めるのもまた一興也。



(サロマ湖に沈む夕日:山下撮影)

- ④ 道天然記念物に指定されている原生の7万株28万本のエゾムラサキツツジが、ツツジ祭(通常GW間)の頃に、見頃になるのは稀有というが、そういう意味では、今回は非常にラッキーであった。
- ⑤ かつては東洋一を誇った水銀鉱山の跡イトムカ(アイヌ語で光る水の意)鉱山跡、
- ⑥ 世界の7割の生産を誇ったこともある北見薄荷、それを物語る記念館と蒸留館での実演、更には仁頃地区に現存する三年の月日を費やして建築したという薄荷御殿
- ⑦ 石北峠の水芭蕉の群落(留辺薬側3合目から4合目)は、この春見た中では、凶ば抜けて花が綺麗で面積も広大であった。
- ⑧ 保存か建て替えかで町長のリコール成立、然し再当選で話題となった豊郷小の設計者ウイリアム・メレル・ポーリスが設計した北海道遺産にも指定されているピアソン(G・P・ピアソン:日本最後の伝道師)記念館
- ⑨ 日本最大の淡水魚でレッドデータブックに記載されている幻の「イトウ」突然変異種の白い「イトウ」が見られる留辺蕊「山の水族館」
- ⑩ 花が咲き誇り、鳥が囀るには早すぎたのかも知れぬが、オホーツク海とサロマ湖の砂嘴にある龍宮街道を自転車でのんびり散策して、300種以上の草花に思いを致す。花の聖水に喉の渴きを癒す。
- ⑪ アイヌの先祖でもなければ、勿論和人でもない、何処から来て何処に消えたか、オホーツク人とも言うべき民族の遺跡であろうか「ところ遺跡」で、蘇った古代の村に足を踏み入れて、遥か8,000年の昔にロマンを馳せ、今は湿原と化したトコロ湖を思う。

● 海の幸と山の恵み！

海の幸は大いに堪能し（細部は省略）大満足であったが、山菜料理のフルコースを食
させてくれる処もあるやに聞いているので、機会あれば・・・。

（参考：各種のパンフレット）